

二〇一一年一月八日現地時間正午（十二時）

## 中国大使館に対しハダ氏の釈放を要求する抗議活動

昨年（二〇一〇年）十二月十日は、「南モンゴル民主連盟」の創立者であったハダ氏が、十五年の刑期を、中華人民共和国・内モンゴル自治区赤峰市第四刑務所で終え、身柄を解放される日であった。世界中のどの国でも、刑期を終え社会への負債を完済した人は、生活を再建するため釈放され、家族との再会を許される。しかし、ハダ氏の場合、釈放日が過ぎて、ハダ氏の所在についての公式発表はなかった。同様に奇怪なことは、ハダ氏の人生の悲劇が、彼の妻のシンナさんと息子のウイレスさんが、釈放日の一週間前に、でっち上げとしかいえない理由で国家警察に身柄を拘束されたことにより、いつそう悪化していることである。一つの家族全体が、すでにほとんど一ヶ月近く、監禁されたままになっていることは、中国の法支配が、いかに不十分であるかを明示している。

南モンゴルの活動家、および抵抗者に対する取締りが強められつつあるなか、「南モンゴル民主同盟」の他のメンバーである、フーチンフー女史とアルスラン氏の二人は、何らの法手続きなしに、二ヶ月近く自宅軟禁の状態に置かれている。また他の多くの人々も沈黙を強いられ、あるいは連絡不能にされている。

我々は、モンゴルと南モンゴルの、全てのモンゴル民族の兄弟姉妹と、全世界の自由を尊ぶ人々に、中国政府による、自国民を苦しめる、この途方もない人権蹂躪と権力乱用とを非難するため、結集するよう呼びかける。

二〇一一年一月八日正午、あなたが居住する国の中国大使館前で、中国政府に対し、ハダ氏と家族を即時釈放するようにとの要求に、参加するよう呼びかけます。また、あなたの地域選出の国会議員に、中国政府が、ハダ氏と家族を無条件で解放させるべく、働きかけるよう、呼びかけます。

以上の南モンゴル民族の悲痛な呼びかけに応え、我々日本人有志は、中国政府が、南モンゴルの人権活動家・ハダ氏とその家族、および「南モンゴル民主連盟」のメンバーを即時、無条件で解放することを要求する。

## シユプレヒコール

- ① ハダ氏を直ちに釈放しろ！
- ② ハダ氏の家族を直ちに釈放しろ！
- ③ フーチンフー女史を釈放しろ！
- ④ アルスラン氏を釈放しろ！
- ⑤ 南モンゴルを自由にしろ！
- ⑥ 南モンゴルの人権を尊重しろ！